

平成22年度の自動車不具合情報の統計結果について

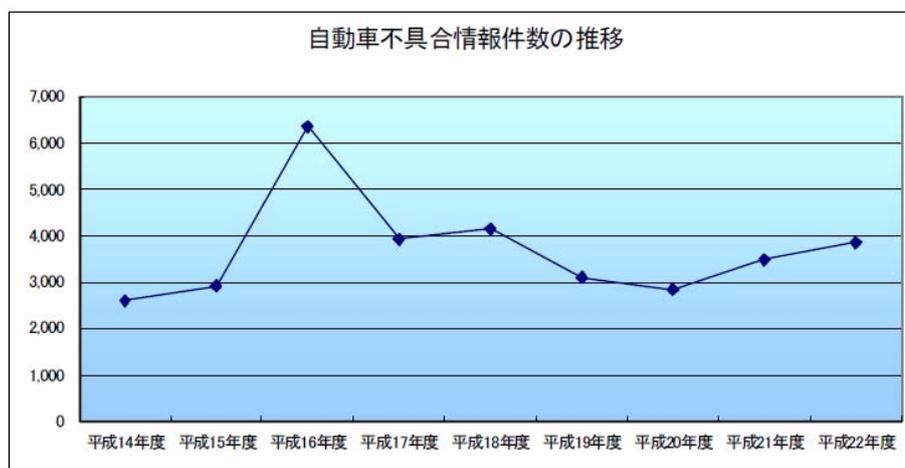
国土交通省の自動車不具合情報ホットライン (<http://www.mlit.go.jp/RJ/>) に自動車ユーザー等から寄せられた市場での自動車不具合情報について、平成22年度の統計結果を公表いたします。

なお、本自動車不具合情報は、設計又は製造に起因するものに限られておらず、整備不良やユーザーの誤使用など他の要因に起因する可能性があるものも含まれています。また、本統計はあくまでユーザーの申告による不具合情報を元にしており、国土交通省として不具合情報の内容の事実関係を保証しているものではありません。

1. 平成22年度に国土交通省の自動車不具合情報ホットラインに寄せられた不具合情報（以下、「不具合情報」という。）の件数は6,938件であり、そのうち有効な不具合情報の件数は（以下「不具合情報件数」という。）3,862件である。不具合情報件数の推移状況は、平成16年度をピークに減少傾向であったが、平成21年度以降は増加傾向である。

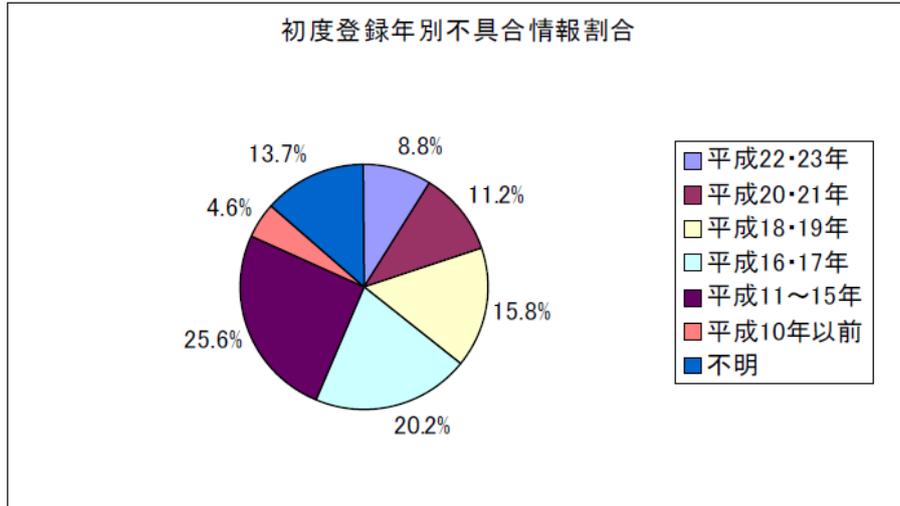
平成16年度は、三菱自動車の不正行為が明らかとなった年であり、当該メーカーの自動車に関する情報が数多く寄せられたことから不具合情報件数が急増したものである。

また、平成21年度の不具合情報件数の増加は、トヨタ自動車のハイブリッド車の制動装置不具合をきっかけとしてリコールに対する社会的な関心が高まった結果、ユーザーから多くの情報が寄せられたと考えられ、平成22年度においてもその状態が継続されていると考えられる。



年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
件数	2,604	2,925	6,361	3,934	4,150	3,110	2,837	3,493	3,862

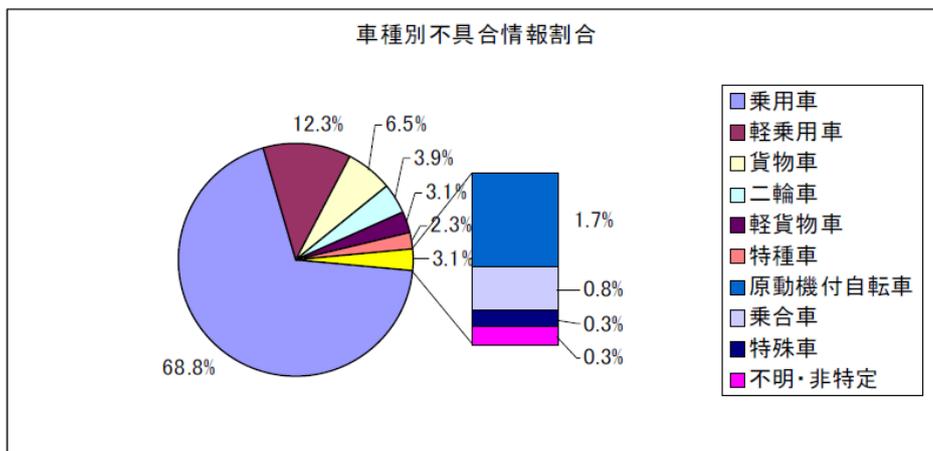
2. 初度登録年別不具合情報件数は、初度登録年が平成11年から平成15年の自動車に関する自動車不具合情報件数が990件と全体の25.6%と最も多く、次いで、平成16年・17年782件、平成18年・19年610件の順となっている。登録後、概ね5年以上経過した自動車についての不具合情報件数が全体の半数以上を占めている。



初度登録年別	平成22・23年	平成20・21年	平成18・19年	平成16・17年	平成11～15年	平成10年以前	不明	合計
件数	340	434	610	782	990	177	529	3,862

3. 車種別不具合情報件数は、乗用車の2,658件が全体の68.8%と最も多く、次いで、軽乗用車474件、貨物車252件の順となっている。

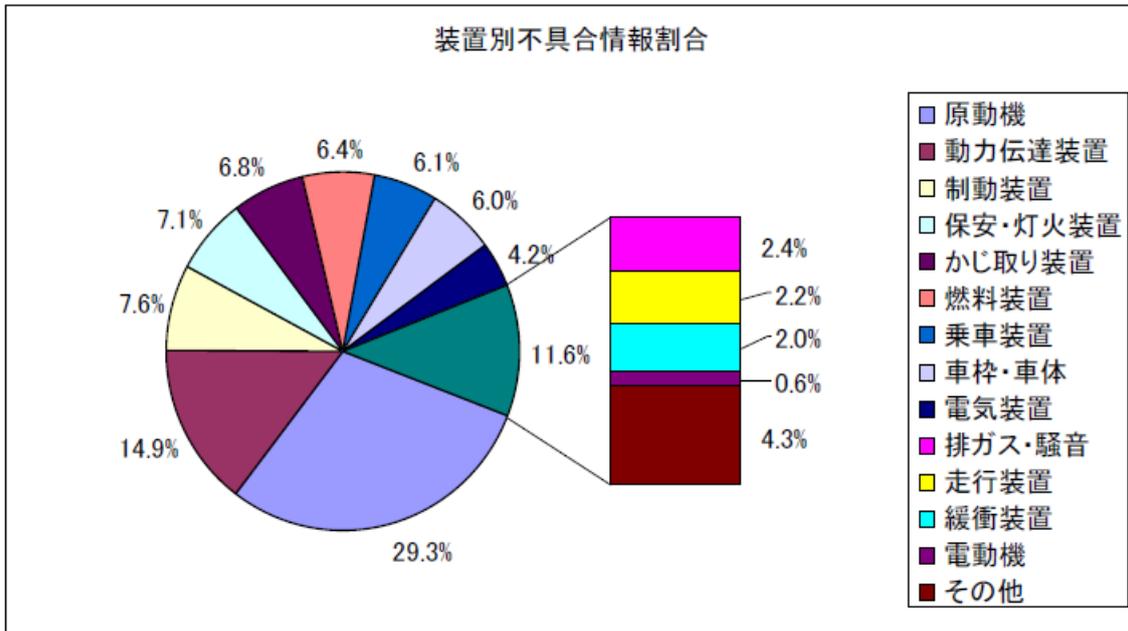
これは、自家用乗用車を所有する一般のユーザーから不具合情報が寄せられる割合が高く、また、乗用車の保有台数40,135千台が全保有台数78,661千台（平成23年3月末現在）の約51%であることにも関係しているものと考えられる。



車種別	乗用車	軽乗用車	貨物車	二輪車	軽貨物車	特種車	原付車	乗合車	特殊車	不明・非特定	合計
件数	2,658	474	252	152	119	88	67	30	12	10	3,862

4. 装置別不具合情報件数は、原動機の1,132件が全体の29.3%と最も多く、次いで、動力伝達装置574件、制動装置295件、保安・灯火装置273件、かじ取り装置263件、燃料装置248件、乗車装置234件、車枠・車体233件、電気装置163件、排ガス・騒音93件、走行装置86件、緩衝装置78件、電動機23件の順となっている。

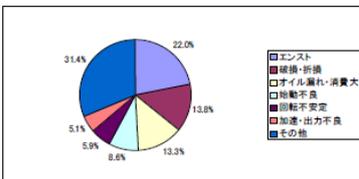
また、不具合情報件数の多い装置について詳細を見ると、原動機の不具合事象はエンスト249件、動力伝達装置の不具合事象は変速しない125件、制動装置の不具合事象は制動力不足85件がそれぞれ最も多かった。



装置別	原動機	動力伝達装置	制動装置	保安・灯火装置	かじ取り装置	燃料装置	乗車装置
件数	1,132	574	295	273	263	248	234

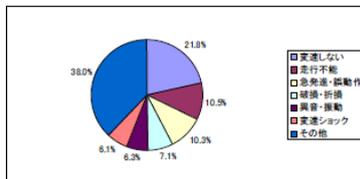
車枠・車体	電気装置	排ガス・騒音	走行装置	緩衝装置	電動機	その他	合計
233	163	93	86	78	23	167	3,862

1.原動機



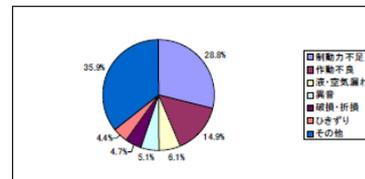
順位	不具合事象	件数
1	エンスト	249
2	破損・折損	156
3	オイル漏れ・消費大	150
4	始動不良	97
5	回転不安定	67
6	加速・出力不良	58
	その他	355
	合計	1,132

2.動力伝達装置



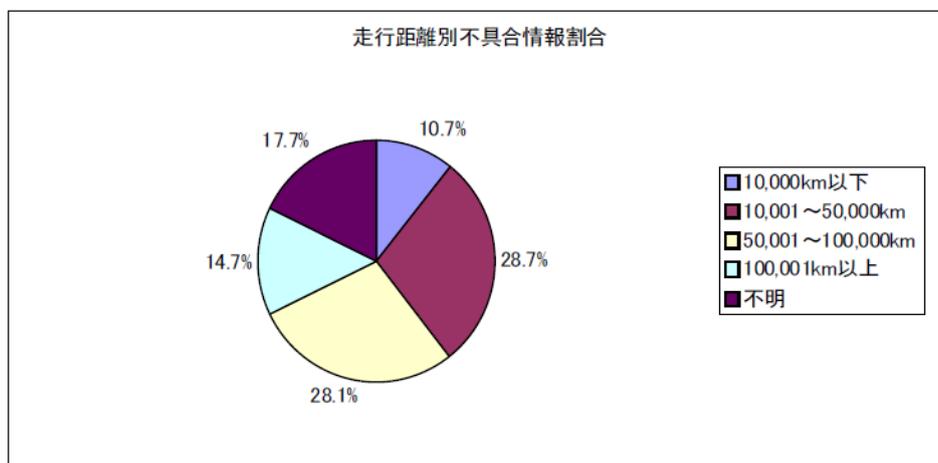
順位	不具合事象	件数
1	変速しない	125
2	走行不能	60
3	急発進・誤動作	59
4	破損・折損	41
5	異音・振動	36
6	変速ショック	35
	その他	218
	合計	574

3.制動装置



順位	不具合事象	件数
1	制動力不足	85
2	作動不良	44
3	液・空気漏れ	18
4	異音	15
5	破損・折損	14
6	ひきずり	13
	その他	106
	合計	295

5. 走行距離別不具合情報件数は、1 万 km 超 5 万 km 以下の 1,107 件が全体の 28.7%、5 万 km 超 10 万 km 以下の 1,087 件が 28.1%と多くなっており、次いで 10 万 km 超 569 件、1 万 km 以下 415 件の順となっている。

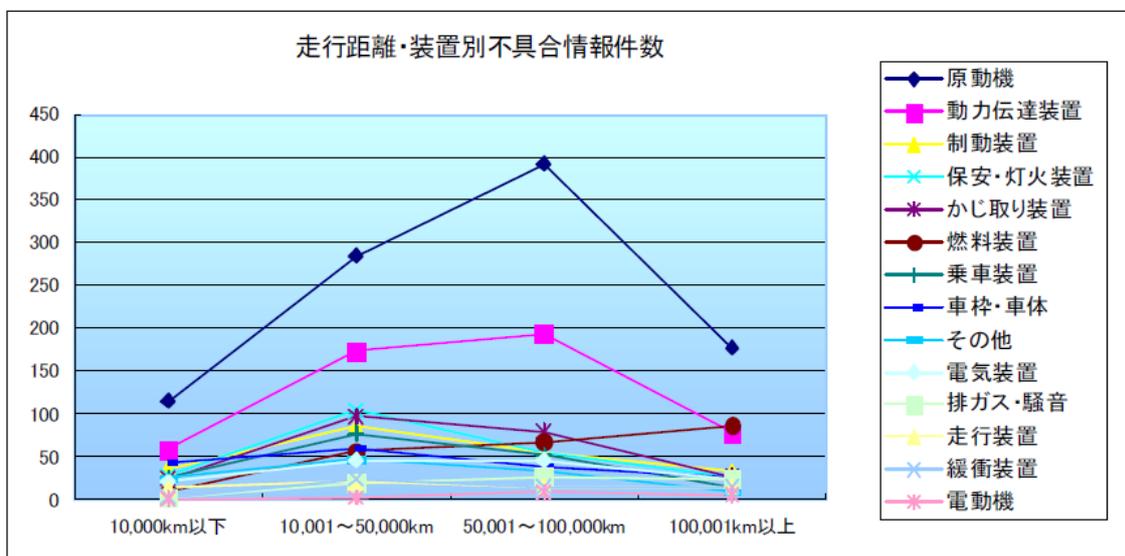


走行距離別	10,000km以下	10,001~50,000km	50,001~100,000km	100,001km以上	不明	合計
件数	415	1,107	1,087	569	684	3,862

6. 走行距離・装置別不具合情報件数は、全ての走行距離別の区分において原動機の不具合情報件数が最も多く、次いで動力伝達装置（走行距離10 万km 超を除く）となっている。

燃料装置については、走行距離が長い区分ほど不具合情報件数が増加し、走行距離10 万km 超では動力伝達装置を抜いて2番目に多くなっているが、それ以外の装置については原動機・動力伝達装置以外の装置をみると各走行距離別の区分とも概ね一定であり顕著な傾向は見られない。

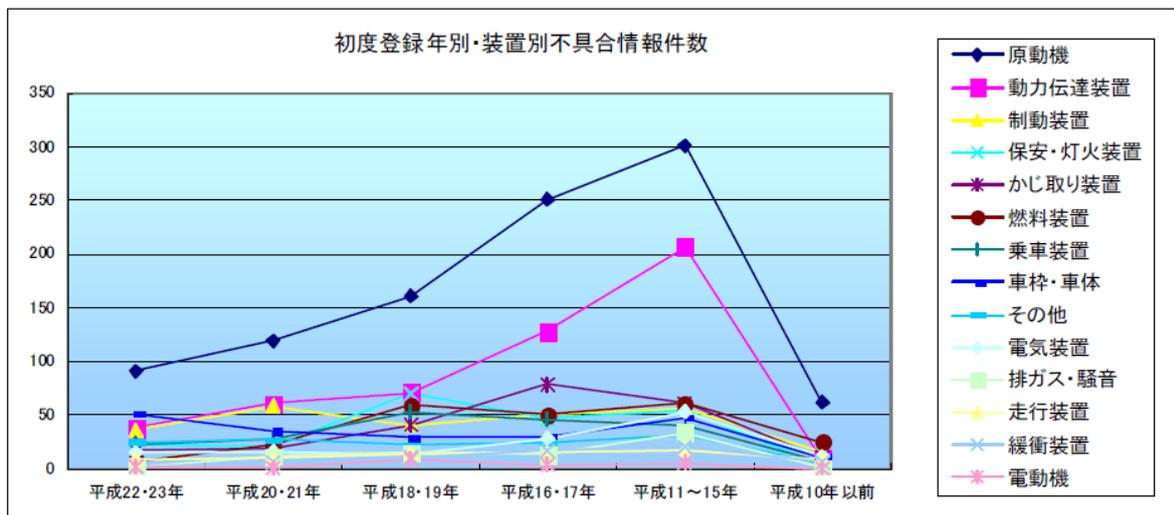
また、不具合情報件数が最も多かったのは、走行距離5 万km を超10 万km 以下の原動機393 件であり、次いで、走行距離1 万km 超5 万km 以下の原動機285 件、走行距離5 万km 超10 万km 以下の動力伝達装置195 件の順となっている。



順位	走行距離別		走行距離別		走行距離別		走行距離別	
	10,000km以下	件数	10,001～50,000km	件数	50,001～100,000km	件数	100,001km以上	件数
1	原動機	116	原動機	285	原動機	393	原動機	178
2	動力伝達装置	59	動力伝達装置	174	動力伝達装置	195	燃料装置	87
3	車枠・車体	44	保安・灯火装置	105	かじ取り装置	80	動力伝達装置	79
4	制動装置	37	かじ取り装置	98	燃料装置	68	制動装置	34
5	保安・灯火装置	29	制動装置	86	制動装置	55	保安・灯火装置	27
6	乗車装置	26	乗車装置	77	保安・灯火装置	55	かじ取り装置	27
7	かじ取り装置	25	車枠・車体	61	乗車装置	52	車枠・車体	26
8	電気措置	21	燃料装置	57	電気装置	47	排ガス・騒音	25
9	走行装置	14	電気装置	47	車枠・車体	39	電気装置	24
10	燃料装置	10	緩衝装置	25	排ガス・騒音	27	緩衝装置	16
11	緩衝装置	4	走行装置	21	緩衝装置	16	走行装置	15
12	排ガス・騒音	3	排ガス・騒音	20	走行装置	16	乗車装置	14
13	電動機	1	電動機	3	電動機	9	電動機	6
	その他	26	その他	48	その他	35	その他	11
	合計	415	合計	1,107	合計	1,087	合計	569

7. 初度登録年別・装置別不具合情報件数は、全ての区分で原動機が最も多く、平成22・23年及び平成10年以前の区分を除き動力伝達装置が、2番目に多くなっている。

初度登録年の区分別に不具合情報件数の多い順を見てみると、初度登録年が平成11年から平成15年の原動機301件、次いで平成16年・17年の原動機251件となっている。登録後概ね5年超での原動機に関する不具合情報が著しく多くなっている。また、動力伝達装置についても、初度登録年が平成16・17年で128件、平成11～15年で207件と経年によって不具合情報が多くなる傾向が見られる。



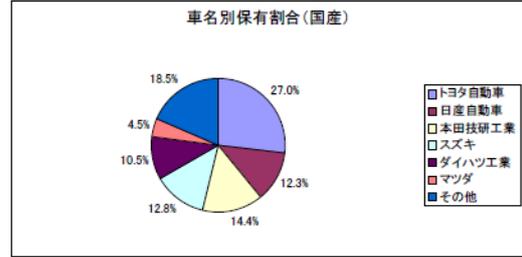
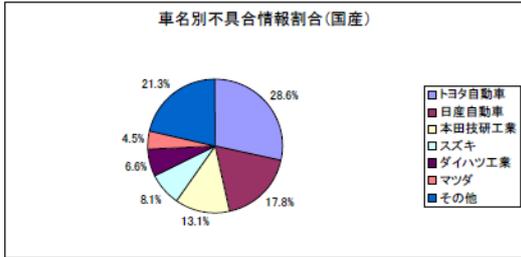
初度登録年別	平成22・23年	件数	平成20・21年	件数	平成18・19年	件数
1	原動機	91	原動機	119	原動機	161
2	車枠・車体	51	動力伝達装置	61	動力伝達装置	71
3	動力伝達装置	38	制動装置	58	保安・灯火装置	70
4	制動装置	36	車枠・車体	35	燃料装置	59
5	乗車装置	23	乗車装置	28	乗車装置	53
6	保安・灯火装置	22	燃料装置	22	制動装置	41
7	かじ取り装置	17	保安・灯火装置	20	かじ取り装置	41
8	電気装置	15	かじ取り装置	19	車枠・車体	29
9	走行装置	9	電気装置	16	排ガス・騒音	15
10	燃料装置	7	排ガス・騒音	12	走行装置	14
11	排ガス・騒音	2	走行装置	10	電気装置	14
12	緩衝装置	2	緩衝装置	6	緩衝装置	11
13	電動機	2	電動機	1	電動機	9
	その他	25	その他	27	その他	22
	合計	340	合計	434	合計	610

初度登録年別	平成16・15年	件数	平成11～15年	件数	平成10年以前	件数
1	原動機	251	原動機	301	原動機	62
2	動力伝達装置	128	動力伝達装置	207	燃料装置	25
3	かじ取り装置	79	かじ取り装置	61	制動装置	16
4	制動装置	50	燃料装置	61	電気装置	12
5	燃料装置	50	制動装置	56	かじ取り装置	11
6	保安・灯火装置	47	保安・灯火装置	55	車枠・車体	10
7	乗車装置	46	電気装置	53	動力伝達装置	9
8	車枠・車体	30	車枠・車体	48	走行装置	9
9	電気装置	28	乗車装置	40	乗車装置	7
10	緩衝装置	17	排ガス・騒音	34	緩衝装置	6
11	走行装置	15	緩衝装置	20	保安・灯火装置	4
12	排ガス・騒音	13	走行装置	18	排ガス・騒音	1
13	電動機	4	電動機	5	電動機	0
	その他	24	その他	31	その他	5
	合計	782	合計	990	合計	177

8. メーカー別不具合情報件数（国産車）は、トヨタ自動車の839 件が全体の28.6%と最も多く、次いで、日産自動車524 件、本田技研工業386 件の順となっている。

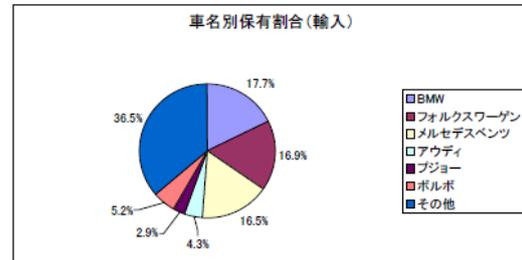
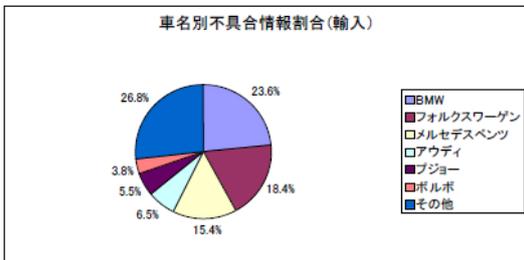
また、メーカー別不具合情報件数（輸入車）では、BMWの218 件が最も多く、次いでフォルクスワーゲン 170 件、メルセデスベンツ142 件の順となっている。

これは、自動車保有台数と概ね相関しているものと考えられる。



順位	メーカー名	件数
1	トヨタ自動車	839
2	日産自動車	524
3	本田技研工業	386
4	スズキ	238
5	ダイハツ工業	195
6	マツダ	131
	その他	625
	合計	2,938

順位	メーカー名	台数(千)
1	トヨタ自動車	20,556
4	日産自動車	9,336
2	本田技研工業	10,944
3	スズキ	9,777
5	ダイハツ工業	8,016
6	マツダ	3,386
	その他	14,072
	合計	76,087



順位	メーカー名	件数
1	BMW	218
2	フォルクスワーゲン	170
3	メルセデスベンツ	142
4	アウディ	60
5	プジョー	51
6	ボルボ	35
	その他	248
	合計	924

順位	メーカー名	台数(千)
1	BMW	657
2	フォルクスワーゲン	629
3	メルセデスベンツ	612
5	アウディ	161
6	プジョー	108
4	ボルボ	192
	その他	1,357
	合計	3,716

(注)：保有台数は、平成23年3月末現在における(財)自動車検査登録情報協会及び(社)全国軽自動車協会連合会の集計数字（小型特殊自動車及び原動機付自転車を除く。）より算出した。